

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名 (仮称) 出流原PAスマートインターチェンジ整備事業				本年度担当課	企業誘致課
				前年度担当課	企業誘致課
政策体系	基本目標01	魅力ある産業で賑わう活力あるまちづくり		新規・継続	継続事業
	政策01	企業誘致を促進し産業振興で活力あるまちづくり		実施計画・一般	実計計画事業
	施策03	出流原PA周辺開発の推進		市単独・国県補助	国県補助事業
基本事業	02	(仮称) 出流原PAスマートインターチェンジの整備		任意・義務	任意的事業
	事業区分			実施方法	一部委託
予算科目	会計	項目 予算事業名		事業分類	施設等整備事業
	一般	08	02 03 (仮称) 出流原PAスマートインターチェンジ整備事業	市長公約	該当なし
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	平成29年度 ~ 令和5年度	総合戦略	該当
根拠法令・条例等 出流原PA周辺総合物流開発整備事業方針					

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
佐野市総合計画の将来像である「交流拠点都市」の実現のため、出流原パーキングエリアへのスマートインターチェンジの整備を実施する。 《事業内容》 測量・設計：平成29～令和元年度 用地測量・買収：平成30～令和2年度 埋蔵文化財発掘調査：令和元年～令和3年度 本体整備工事：令和2～令和4年度 ※ネクスコ東日本との協定により、ETCゲートを含むPA側をネクスコ東日本が整備し、ゲート外側から県道接続部までを本市が整備する。				<本市が実施> <ネクスコ東日本> (本市は負担金対応) ・交通量調査 ・土工・構造工 ※R4.9.19 出流原スマートインターチェンジが供用開始となった。						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
整備の進捗率	%	85	100	-	-	-				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
(仮称) 出流原PAスマートインターチェンジ (市道304、305号線整備部分)				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				出流原スマートIC	箇所	1	1	1	1	1
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
出流原PAにスマートインターチェンジを整備し、周辺交通の円滑化と環境の改善を図ることにより、本市の産業振興・観光振興等に寄与する。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				整備の進捗率	%	目標 実績	100 100	100	-	-
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
出流原PAにスマートインターチェンジを整備する。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				整備の進捗率	%	目標 実績	100 100	100	-	-

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	105,655	38,885	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	299,100	78,400	0	0	0	
	その他	千円	5,776	0	0	0	0	
	一般財源	千円	16,498	9,748	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	427,029	127,033	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	121,535		
					委託料	5,467		
				需用費	27			
				旅費	4			
人件費	職員従事工数	人工	1.4	1.4	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	10,258	10,202	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	437,287	137,235	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	(仮称) 出流原PAスマートインターチェンジ整備事業	本年度担当課	企業誘致課
		前年度担当課	企業誘致課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成29年7月に国土交通省により、(仮称)出流原PAスマートICが「新規事業化箇所」に採択されたため、令和4年中の供用開始を目指し、整備を進めて行く。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	以前実施された調査では、北関東自動車道沿線に企業立地を検討する企業においては、高速道路のインターチェンジへの近接性を重要視されている傾向がある。また、国においても、高速道路が持つストック効果を活かし、産業振興、観光振興等を図るため、積極的にスマートICの設置を推進するとしている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	市議会の一般質問において、出流原PAへのスマートインターチェンジ設置は地方創生にも大きく寄与することから全力で取組むべきとの意見があった。また、地元説明会等においては、出流原PA周辺総合物流開発整備と合わせた事業進捗を図ってほしいとの意見もあった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持のため対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
成果向上の余地がないため			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
ネクスコ東日本などと協議、調整を適宜行いながら事業を進め、スマートインターチェンジの整備を行った。		供用開始後のスマートインターチェンジのフォローアップを行う。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			